令和５年度第１回　長野市上下水道事業経営審議会　議事要旨

日時：令和５年７月27日(木) 14時～15時50分
会場：長野市犀川浄水場　１階会議室

議　事

(1) ４年度決算の報告、(2) 水道及び下水道事業の経営戦略進捗報告

〇事務局から一括説明

〇質疑応答・意見

〔委　員〕

下水道事業会計決算で収支の不足額を内部留保資金で賄っているが、補填後の残高が 24 億円と大幅に少なくなっている。毎年そこから賄って今年度は使用料を上げないということか。

〔事務局〕

資本的収支不足額が 62 億円で、補填後の残高は 24 億円だが、毎年、収益的収入及び支出の中で、使用料収入等で賄っている減価償却費等 66 億円は現金の支出が発生しない。その分を留保して収支不足額に充てることで、毎年 60 億円の内部留保資金が発生するため、不足することはない。

〔会　長〕

令和３年度と４年度の損益勘定留保資金は 24 億円で同額となっている。下水道事業は減価償却費と長期前受金戻入との差額が厚いため、収支不足を補填できている。問題なのは水道事業で、110 億円を下回っていて約５億円減少している。水道事業は減価償却費と長期前受金戻入では足りないため、貯蓄を取り崩しており、下水道と上水道では収益構造が多少異なる。上水道は少し不安だが、元々110 億円あるうちの５億円であるため 20 年間は問題ないと言える。

〔副会長〕

資料２の２ページ「災害に強い水道の整備について」に重要給水施設として位置付けた施設 30 か所と、配水ブロック整備工事はどのくらい整備が完了しているのか。

〔事務局〕

重要給水施設は 30 か所のうち、昨年度末で 16 か所が整備済み。今後も計画的に整備していく。配水ブロックは当初 71 か所を予定していたが、66 か所に変更した。平成９年から整備を始めて現在は 55 か所が完了。進捗率は 83.3 パーセントで、令和 10 年まで整備を予定している。

(3) 川合新田水源地周辺の地下水調査業務計画、(4) 下水道ストックマネジメントについて

〇事務局から一括説明

〇質疑応答・意見

〔委　員〕

有機フッ素化合物が川合新田水源の井戸で１リットル当たり 50 ナノグラムを超えたため、６本中２本を停止したとの説明だが、基準値は世界的にも年々下がってきており、今後も下がる可能性があるため、マージンをとった方がよい。長野市の現在の検出値はどのくらいか。

〔事務局〕

６月に測定した最新の結果では、最終的にひとつの配水池に集めた水を計測した数値（混合水）は４ナノグラム。

〔委　員〕

ほかの水源でも対策をしているのか。また、原因が分かったら教えてほしい。

〔事務局〕

市内の全水源約 50 か所で有機フッ素化合物の測定をしており、検出されたのは今のところ川合新田水源１か所。原因は分かっていないが、有機フッ素化合物の影響が出ない井戸を掘るための調

査や専門家会議を現在行っているところで、その中で原因を特定できるかどうかは分からない。

〔会　長〕

下水道ストックマネジメント計画は、令和元年度に策定されたものを今回見直すということだが、令和６年度から５年間が対象になるのか。

〔事務局〕

５年ごとに国へ事業計画を提出している。これは補助金をもらうための計画で、今年の３月末に提出した。ストックマネジメント計画は期間を区切ったものではなく、計画に大きな変更があれば、その都度改訂していく。

〔会　長〕

昨年、下水道使用料見直しの審議で塩化ビニール管の耐用年数が論点に上がり、その時はまだ不明だが想定よりも長く使えそうだと回答があった。資料を見ると埋設されている管の多くが塩化ビニール管に入れ替わっている。下水道事業が将来にわたって継続できるかは、耐用年数が鍵になる。

〔事務局〕

劣化状況の把握も併せて調査が必要と考えている。全国的な調査では劣化が進んでいない傾向だが、ほかの市町村などの調査結果も把握していく。

〔会　長〕

2082 年から塩化ビニール管を入れ替えるのであれば、最低 60 年間は維持させる必要がある。現在の管が約 50 年前からのものとすると、100 年以上は使用することになる。そのために情報収集はもちろん、ほかの市町村にとっても懸念材料であれば、国へ提言するなど方策はある。協力して早めに耐用年数を示してほしい。